



- 立科小学校／午前9時～午前11時30分  
電話 56-3131 (呼)・有線2190 (呼)
- 立科中学校／午後2時～午後5時  
電話 56-1076 (呼)・有線2251 (呼)
- 立科町児童館／  
午前 11時50分～午後 1時40分  
電話 56-0303(直通)・有線 8888 (直通)  
(担当 指導主事 中島一彦)

指導主事だより

教育委員会

## なんだか うれしい

## 乗り越えようとする子どもたちの学びの文脈



児童会長候補としての公約を切々と語りぬいた司君と佑海雪さん。コロナ禍で2年生の時から、立会演説会を目の前で見る経験のなかった5年生の子どもたち。3年ぶりに一堂に会した体育館での児童会長選挙候補者立会演説会。緊張感の漂う中、ひと言ひと言に思いを乗せ、「自分たちが創り上げていく学校生活」を語りかけ続けた2人の候補者。冷めやらぬ緊張感の中、

「候補者の公約に意見、質問をお願いします。」と進行席からの声。

児童会に初参加の3年生の子ども達も挙手して話し合いに参加の意志を示してくれました。

「候補者の皆さんに質問します。3つのことをやって言ってくれましたが、同時には出来ないと思うのですが、どんなふうに行うのでしょうか？」

答弁席に立つ司君と佑海雪さん。原稿を見つめながら考え続ける司君。同じように前を見つめながら考え続ける佑海雪さん。高まる緊張感の中、沈黙の時間が流れます。

自分が語った内容と質問者の思いをどうつなげていくか。司君と佑海雪さんならではの質問への応答を、逡巡しつつ、懸命に考え続ける「かけがえのない時間」を過ごしてくれているように思えてきました。沈黙の時間が会場全体に流れます。2人は自らの内面へと誠実にアクセスし、そこから確かな自分の言葉を汲み上げていたのです。

「皆さんの力を借りながら、みんなで考えていきたい」と司君。

「具体的にはまだ考えていないけれど、この学校の皆さんと話し合いながら進めたい」と佑海雪さん。

『みんなと同じことができる』『言われたことを言われたとおりにできる』では解決できない場に立つ二人。

今、この場を自分の判断と決断で言葉を紡ぎ出し、乗り越えようとした二人の学びの文脈が立ちあがっています。

そんな感動が沸き上がってきました。

そして自分事として聴き入る子どもたち。子どもたちのやり取りに思わず耳を傾け続ける教師たちの姿も見事でした。この場に教師は誰一人、口をはさんでいません。我が子たちに信頼を寄せていくという教師の力。170人の子どもたちが、自分の意志で

■「立科小学校の新しい1年を どうやっていくか」

■「みんなが楽しい生活をするためには どうしたらいいか」

に向かい続けていました。

2人の学校づくりを「やってみたい」思いが「やってみたい」に応えようとする仲間や教師たちの

「一緒にやろう」を沈黙の空間の中から生みだしていきました。

懸命に聴き合う姿が、そのことを物語っています。

「やってみたい」の呼応と連鎖が何よりも尊いことに思えるのです。

